Global Technology Initiative

GTIコンソーシアム
2019年 事業報告書

GTI Consortium

ご挨拶

人材育成とイノベーションの創出

GTIコンソーシアム
代表　村上　雅人
（芝浦工業大学 学長）

世界のグローバル化は、急速に進展しています。1980年代には経済のグローバル化が進みましたが、1990年代には高等教育のグローバル化によって人的交流もさかんになりました。21世紀はボーダーレスの世界と言われています。いまや、世界の経済も教育も、単一の国家で完結するものではなくなりました。そして、世界の持続的発展を期するためには、異なる文化や習慣、歴史を有する多種多様な人たちが違いを理解し、そして、尊重し、互いに協調しながら、地球的課題に取り組んでいく必要があります。このようなグローバル社会の発展に貢献する人材の育成が急務です。

大学は、社会を変革するイノベーション創出を可能にするとともに、世界の持続発展に貢献できる人材の育成を行う使命があります。そして、急速なグローバル化とともに、技術革新が進む社会においては、その教育内容をより実践的なものにして、教育の質を向上させる必要があり、そのためには、産業界や政府機関との連携が不可欠であると考えています。

天然資源に恵まれない日本は、20世紀にたゆまぬ努力で工業立国として、世界の中で現在の地位を築きあげました。これらの経験を活かし、さらなる国際社会の発展に貢献する義務があると考えます。一方、東南アジア諸国は、若い労働力が多く輩出され、活気に満ち、着実に技術力を向上させており、国際社会の中でさらにその存在感を顕わなものにしています。

このような背景のもと、日本と東南アジアに軸足を置き、産学官の連携を強化するためにGTIコンソーシアム（Global Technology Initiative Consortium）を設立いたしました。GTIコンソーシアムでは、東南アジアにおける産業現場の課題や各国の環境・防災等を含む社会課題を取り上げ、それらの課題を解決することで、教育の質の向上、人材の育成と供給、イノベーションの創出、産業競争力の強化を推進してまいります。

背　景

グローバル化の進展に伴い、日本企業は売り上げ・生産において海外比率を高め、さらに国際競争力を持った製品の開発・サービスの展開を進めるため、海外企業や産業との連携が必要不可欠となっています。また、日本国内においても企業のグローバル化や外国人との共生社会の構築が加速しています。一方、高等教育機関も、教育研究を通して、社会の発展を支える要素となり、国際競争力を高めることが求められています。

このようにグローバル化が進む中、多様な背景を持つ者同士の協働は不可欠になっており、大学・産業界・政府行政機関との連携が重要となっています。

これを受け、2015年12月３日、**GTIコンソーシアム（英文名：Global Technology Initiative Consortium）**を発足いたしました。

GTIコンソーシアム概要

日本と世界の大学、企業
理工系人材の育成、イノ

構　想

GTIコンソーシアムではグローバルPBL、国際共同研究やインターンシップなどを推進し、国内外の企業や高等教育機関等と人材交流・研究交流のネットワークを活用し、各国における社会課題や企業の抱える技術的課題の解決を図り、同時に世界の経済・社会を支える理工系人材の育成を担ってまいります。

目　的

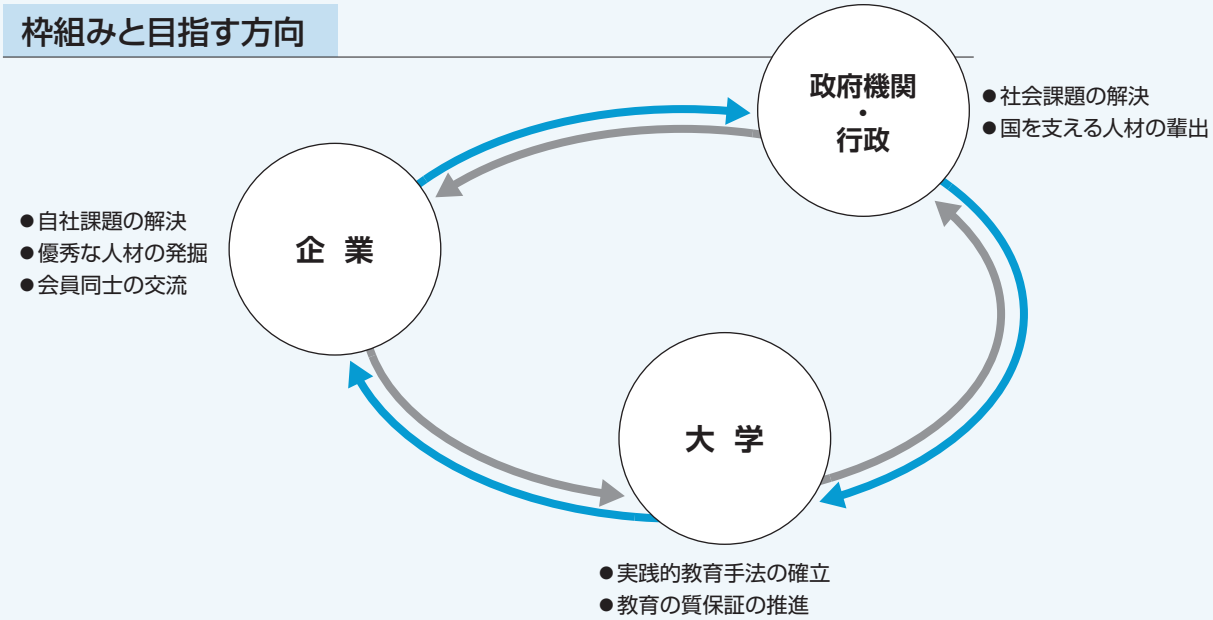
理工学教育の質の向上　国内外の産学官が連携し、実践的な教育を提供することで、理工学教育の質を向上させます。

人材の育成と輩出　品質保証された理工学教育により、グローバルエンジニアを育成し輩出します。

イノベーションの創出　グローバルエンジニアが世界をフィールドに活躍することで、イノベーションを創出します。

産業競争力の強化　グローバルエンジニアによって創出されたイノベーションにより、産業競争力を強化します。

枠組みと目指す方向



の連携を強め、
ベーションの創出を図る。

GTIコンソーシアム運営委員会メンバー機関

工学院大学　芝浦工業大学　東京電機大学　東京都市大学　福岡工業大学
独立行政法人国際協力機構（JICA）　国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）　株式会社IHI　株式会社NTTデータ
東京東信用金庫　トヨタ自動車株式会社　株式会社フジクラ　ボッシュ株式会社
株式会社三井住友銀行　三井住友建設株式会社　三菱電機株式会社

アドバイザリーメンバー

ハノイ理工科大学　ホーチミン市工科大学　キングモンクット工科大学トンブリ校　スラナリー工科大学
泰日工業大学　マレーシア工科大学　マレーシア日本国際工科院　ガジャマダ大学
バンドン工科大学

主な活動内容

1 企業や途上国の課題解決のための方策を議論、成果発表を行う

グローバルPBL

GTIコンソーシアムに属する大学の学生が、複数の国籍からなるチームを形成し、企業における現場の課題や途上国が直面する社会課題などを取り上げ、課題解決のための方策を議論し、成果発表を行います。

課題の設定や解決方法の議論は、大学教員および企業、政府等からの派遣講師の指導の下で行い、問題解決能力を有するグローバル理工系人材の育成を目指します。

2 学生が自国以外の企業の実習を行い、多面的な視点を身につける

国際インターンシップ

自国外のオフィスや工場などで学生が実習することで、文化や考え方の多様性を体験し、多面的な視点からものごとを俯瞰する能力を育成するとともに、現場における課題発見や問題解決実習を通して、グローバル理工系人材を育成します。

3 世界の持続的発展を考える

国際共同研究

GTIコンソーシアムのメンバーの大学および企業による、世界の持続的発展などに関する国際共同研究を推進します。

4 各国の開発支援・研究協力プロジェクトにGTIコンソーシアムメンバーが参画

政府間協力プロジェクト

各国の開発支援プロジェクトや研究協力プロジェクトにGTIコンソーシアムの加盟機関が参画するとともに、GTIコンソーシアムから各国のニーズに即した政府間協力プロジェクトの提案を行います。

5 教員の相互交流、学生の共同学位の取得などを進める

大学間国際連携

GTIコンソーシアムの大学間での教員の相互交流、日本のものづくり技術を基幹とするグローバル工学教育の普及、海外大学院生の日本での学位取得や大学間での共同学位の取得などを進め、国際交流を推進します。

6 行政、企業、大学関係者らが集い、講演・成果報告などを行う

GTIコンソーシアムシンポジウム

GTIコンソーシアムにおける諸活動の情報共有とさらなる発展を目的として、年に1回シンポジウムを開催します。国内外の政府機関、産業界、大学関係者からの講演、およびコンソーシアムにおける諸活動の成果報告などを主な内容とします。

※個別の活動において発生する費用負担、機密情報の保護管理、知的財産等の成果物の取扱い、その他の必要事項については、当事者間で取扱いを定め、各当事者の責任のもと運用管理していただきます。

GTIコンソーシアム 2019年事業報告書　目　次

ご挨拶　GTIコンソーシアム 代表　村上 雅人（芝浦工業大学 学長） 1

GTIコンソーシアム概要 2
背景／構想／目的／枠組みと目指す方向／主な活動内容

Topics
産学官連携の新しい取り組み
GTI コンソーシアム
Willings & インド工科大学（IIT）
世界最高峰の理工系大学と日本の企業をつなぐ 6

2019年活動 ダイジェスト 8

GTIコンソーシアム 2019年活動報告

1　グローバルPBL 活動報告

報　告
参加大学　キングモンクット工科大学トンブリ校／芝浦工業大学 10
参加企業　三信建設工業株式会社／あおみ建設株式会社
自然災害に強靱な都市を創造する土木工学グローバルPBLを実施

報　告
世界12の国・地域、25大学・1企業から88人が集う 14
Cross-cultural Engineering Projectを実施－企業の課題解決に挑む－

2　企業連携案件の紹介

GTIコンソーシアムシンポジウム2019報告から（抜粋）
Special Speech 1 ／特別講演 1 18
ボッシュ株式会社
Invented for Life －Towards a Sustainable Transformation
Special Speech 2 ／特別講演 2 22
株式会社コウェル／有限会社コウェルアジア
Data Analysis / Web Application Development Using PHP
データ分析・PHPを用いたWEBアプリ開発

3　国際インターンシップ 活動報告

鹿島建設株式会社　タイでコミュニケーション能力を養う 25
三井住友建設株式会社　Great Opportunity in One of the World's Most Prosperous Countries 26
カネパッケージ株式会社　海外で働くことへの憧れを改めて実感 27

資料　GTIコンソーシアム加盟機関一覧 28

Topics 産学官連携の新しい取り組み

GTIコンソーシアム Willings & インド工科大学（IIT）

世界最高峰の理工系大学（インド工科大学）と日本の企業をつなぐ

世界と渡り合える「真のグローバル化」と「IT技術の向上」の実現へ

GTIコンソーシアムでは、株式会社Willingsが提供する、インターンシップを介してインド工科大学生を企業に紹介する「GALK」のプログラムを使った異文化PBLを実施しています。

2017年度から、毎年１回、以下のテーマで開催してきました。プログラムに参加したGTIコンソーシアム加盟企業からは、高い評価をいただいています。

テーマ		
	2017年度	東京オリンピック・パラリンピック
	2018年度	働き方改革
	2019年度	Is Artificial Intelligence Dangerous?

株式会社Willings

本社　東京都江東区　　創立　2018年１月11日

「世界の頭脳で、日本を変える」というミッションのもと、2018年１月に設立。

インド工科大学（IIT）11校と連携し、同校に特化したインターンシップ経由での採用支援サービスを展開。

毎年５月～８月の間、夏季休暇を利用し３年生を対象とした２ヶ月のインターンシップを実施。これまで欧米企業との獲得競争が激しく採用難関校として知られていた同校から、独自のスキームを用いて学生を選定。

インターンシップ期間中に学生及び企業の相互理解を深めた上で、本採用に繋げることを目的とする本プロジェクトにより、現在までに計72名の学生をインターンシップで来日させ、そのうちの６割のIIT出身者を日本での正規就業に繋げている。

WillingsのGALK（ガルク）とは

「組織を変える、インド工科大生のお試し採用」をコンセプトに世界の理工系大学最高峰に位置するインド工科大学の学生をインターンシップ経由で採用できるプログラムです。

株式会社Willingsからのコメント

インド工科大学とのインターンシップをサポート

代表取締役
町田 豊明 氏

当社は、インド工科大学（IIT）に特化したインターンシップ経由での採用サービス、GALK（ガルク）を展開しています。IITは、インド政府によって設立された計23校からなる世界最高峰の理工系国立大学の総称です。当社は日本企業の真のグローバル化における組織改革とIT技術の大幅な底上げを目的とし、採用難関校として知られる同校と連携した日本での採用スキームを作り上げてきました。GTIコンソーシアムとのコラボレーション企画として、当社を通じてIITから来日するインターン生と、日本の学生のアイディアソンを過去３年に渡り開催してまいりました。

IITの学生はインターンシップ中に、インターン先のメンターや上司とは日々密にコミュニケーションを取りながらプロジェクトに従事しますが、同年代の日本の学生と接する機会がありません。そのためたった１日のイベントではありますが、日本の学生と何かを一緒に創造する機会を設け、その日を境に継続的な交友関係を築いて欲しいという想いでGTIコンソーシアムと共同でアイディアソンを実施する運びとなりました。

当初の予想以上に、日本の学生にとっても実りあるイベントとなり、ある日本人学生は、この日を境によりグローバルな環境へ自身の身を置き、積極的な交流にチャレンジしていきたいと、力強い感想を述べていたのを見て非常に感動いたしました。

また今回GTIコンソーシアムを通じて、当社の取り組みをご紹介いただき、実際にインド工科大学の学生をインターンシップで受入れることで、見事、欧米企業との争奪戦を制しIITの採用実績を作られた企業様の事例も出てまいりました。

今後も引き続きGTIコンソーシアムとの連携を深め、日本の学生および日本の企業とIITを結び世界と渡り合える「真のグローバル化」と「IT技術の向上」を実現していきたいと考えております。

プログラムに参加した横河電機株式会社

積極的に海外人財の採用に取り組む

常務執行役員
阿部 剛士 氏

YOKOGAWAは今年（2020年）で創立105年目を迎えますが、IA（インダストリー・オートメーション）事業がその中心です。IA領域でも特にYOKOGAWAが得意としているのはプロセス・オートメーション領域で、業種ではオイル＆ガス、石油化学、紙・パルプ、鉄鋼、電力などになりますが、まさに今、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の下、ITとOTの融合がプロセス・オートメーションの世界で起ころうとしています。DXをドライブする重要なテクノロジー・ドライバー、それはAI（人工知能）／ML（機械学習）、ブロックチェーン／DLT（分散型台帳）、AR／VR／MRなどを利活用した開発も新たに自社で行う必要性に迫られています。それら新しいDXに関係するようなエンジニアを国内はもとより、広く海外に求めており、積極的な海外人財の採用に取り組んでいます。

採用に向けた取り組みとしては、最近ではIIT（インド工科大学）のジョブフェアへの参加やGTIコンソーシアムで紹介を受けた、Willings社のサポートによるインターンシップ活動を通して優秀な人財を採用しています。

今後、ヒューマン・キャピタル戦略として国外から優秀な人財を積極的に採用していきます。

横河電機株式会社

本社　東京都武蔵野市
創立　1915年９月１日

計測・制御機器メーカーとしては国内最大手、世界第６位の工業計器・プロセス制御専業メーカー。

プラントの生産設備の制御・運転監視を行う分散形制御システムを世界に先駆けて開発し、YOKOGAWAグループ会社とともに、計測、制御、情報の技術を軸に最先端の製品やソリューションを提供している。

2019年活動 ダイジェスト

2月～3月	グローバルPBL	
5月24日	【BOSCH特別講義】 「電動車パワートレインの開発状況」(技術や製品、戦略について)	芝浦工業大学 豊洲キャンパス
6月22日	【PIITs & GTIコンソーシアム】異文化PBL2019 「Is Artificial Intelligence Dangerous?」 インターンシップで来日中のIIT学生を中心としたインド人学生と、GTIコンソーシアムに加盟する大学の学生との交流。 IIT、インド情報技術大学、バナラス・ヒンドゥ大学、工学院大学、東京大学、東京理科大学、獨協大学、芝浦工業大学の学生とGTIコンソーシアム加盟の複数機関が参加。	芝浦工業大学 豊洲キャンパス
8月～9月	グローバルPBL、国際インターンシップ	
11月11日	【BOSCH特別講義】 「自動運転・駐車セミナー」	芝浦工業大学 大宮キャンパス
12月6日	【GTIコンソーシアムシンポジウム2019】 「産学官連携による人材育成の取り組み」をテーマに、GTIコンソーシアムの活動を紹介。280名が参加。	芝浦工業大学 芝浦キャンパス

GTIコンソーシアム
2019年活動報告

1　グローバルPBL 活動報告

2　企業連携案件の紹介

3　国際インターンシップ 活動報告

報　告

参加大学　キングモンクット工科大学トンブリ校／芝浦工業大学
参加企業　三信建設工業株式会社／あおみ建設株式会社

自然災害に強靱な都市を創造する土木工学グローバルPBLを実施

芝浦工業大学 工学部 土木工学科 教授　稲積 真哉

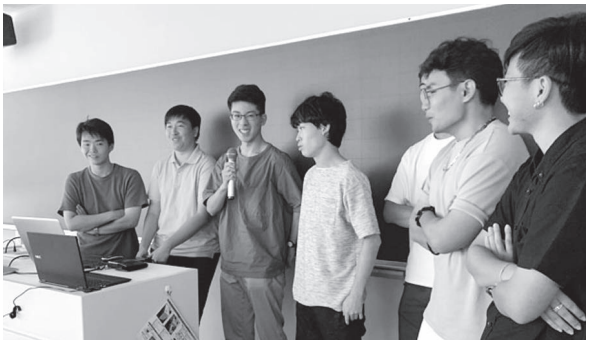
日　　時
　2019年７月30日～８月７日
指導教員
　芝浦工業大学 教授 稲積真哉
　キングモンクット工科大学トンブリ校（タイ）
　　助教 Ekkawatpanit Chaiwat
　キングモンクット工科大学トンブリ校（タイ）
　　助教 Youwai Sompote
参加大学及び学生数
　キングモンクット工科大学
　　トンブリ校（KMUTT）　14名
　芝浦工業大学（SIT）土木工学科　23名
企 業 名
　三信建設工業株式会社
　あおみ建設株式会社

1　PBLの目的・狙い

防災・減災技術の提案による自然災害に強靱な都市の創造

「タイの土木系大学生と仲良く・楽しく・愉快に日本の建設現場を巡り、土木の最前線に触れ、新たな課題を考えてみませんか」をキャッチフレーズとして、芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて日本とタイに共通する自然災害（豪雨災害等）から地圏・水圏を守る防災・減災技術の提案（自然災害に強靱な都市の創造）をテーマとした土木工学グローバルPBLを実施した。

本学土木工学科の学部生を対象とした土木工学グローバルPBLでは、学部生が防災・減災に根ざした土木技術に一層親しむこと、同年代かつ同じ土木工学を専攻する海外の学生と主体的に交流を図ることで自身の英語学習に関するモチベーションを高めることを目的・目標に据えた。そのため、実施期間中は本学学部生、海外学生ならびに若手技術者で混成された各グループによって活動・行動することを念頭に、種々の現場見学、講義ならびに議論を展開した。



2 実施内容

建設現場見学と防災・減災技術のディスカッション

土木工学グローバルPBLでは本学から土木工学科の学部生が参加し、キングモンクット工科大学トンブリ校工学部土木工学科の学部生・大学院生、ならびにあおみ建設株式会社に勤務する若手技術者と協力し、自然災害（豪雨災害等）から地圏・水圏を守る防災・減災技術（自然災害に強靱な都市）創造・提案した。

具体的には、東京都内において三信建設工業株式会社が請け負っている地盤防災に関連した建設現場の見学、また理想的な都市創造の一例として東京オリンピックの開催に向けて整備中である東京湾岸も各グループごとで見学した。さらに、日本ならびにタイにおける地盤防災、とりわけ地盤改良に関する建設現場や斜面が崩壊した現場に関する講義も行い、日本ならびにタイにおける自然災害（豪雨災害等）の脅威について理解を促すとともに、自然災害から地圏・水圏を守る防災・減災技術の現状も紹介した。なお、最終日には各グループで「自然災害から地圏・水圏を守る防災・減災技術の提案（自然災害に強靱な都市の創造）」というテーマの下、上記から得られた成果を議論・発表・共有した。

3 成果（アウトカムズ）

学生の創造的な発想に基づく斬新な防災・減災技術の提案

最終日に行われた各グループによる成果発表では、各グループごとに創造的な発想に基づく斬新な防災・減災技術ならびに自然災害に強靱な都市の創造に関する提案が行われ、そして、各々の提案技術について参加者全員で楽しみながら話し合い、理解を深めることができた。以下では、当初の目的に対して参加した本学学部生の感想を抜粋する。

- この貴重な経験はなかなか体験することができるものではないので、人生の中で大切なものになったと思っています。
- 最終日の打上げの際に「今度はタイに来てよ！」とみんなに言われました。僕自身こんなに海外に興味を持ったのは初めてです。
- 先輩やタイの学生に助けてもらいながらグループで話し合ったこと、三信建設工業やあおみ建設の現場見学で普段見られないところを見せていただいたことなど、多くの貴重な体験をすることができました。より一層土木に興味が湧きました。
- 新しいことを多く知ることができ楽しかったです。また、英語以外にもタイ語と日本語を教え合ったのですが、タイの方々はとても吸収が早くて日本語をすぐに覚えて使っていたのには驚きました。
- 始まるまでは不安でしたが、グローバルPBLが始まってからの９日間とても充実した時間を過ごすことができたので参加できてよかったです。

4 レビュー・今後の取り組み

土木工学グローバルPBLの更なる展開

土木工学グローバルPBLの実施を通じて本学土木工学科の学生ならびにあおみ建設に勤務する若手技術者は、自らが専攻する土木工学が世界における自然災害からの強靱化に如何に貢献する工学学問であるか、また、他国において土木工学を専攻する学生が何を考え、何を目指しているかを英語を通じて理解する良い経験となった。

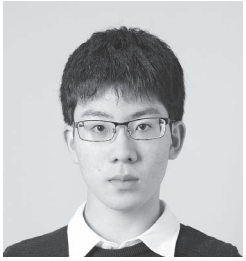
このような土木工学グローバルPBLの実施は、カセサ

ート大学、スラナリー工科大学、ハノイ土木大学、ならびに東南アジアにおける各大学・機関からも高い評価・関心を受けており、今後は賛同いただける海外の大学・機関と合同での土木工学グローバルPBLを企画・開催していく予定である。

学生のコメント

英語や土木に関する知識を増やしたい

芝浦工業大学 工学部 土木工学科 1年　田山 康一



今回、私は初めて海外の学生と一緒に土木について学び、トンネルや地盤改良の現場を巡りました。海外の学生と一緒に英語で講義を受けるのが初めてだっただけでなく、実際に工事をしている方に解説をしていただきながらなかなか普段見られない現場を見学することができました。英語で専門的な話を聞くことは私にとって初めてでしたが、内容を理解するのにとても苦労したので英語を勉強したり、もっと土木に関する知識を増やしたりしたいというきっかけになりました。また、実際に行っている工事について丁寧に解説していただいてから見学したので、どのような工事をどのような仕組みで行っているか理解してから見学でき、とても有意義なものとなりました。また、実際の社員からお話を聞けたので、大学で学んでいることをとても身近なものとして感じることができました。

三信建設工業株式会社

キングモンクット工科大学トンブリ校（KMUTT）と実施したPBL報告

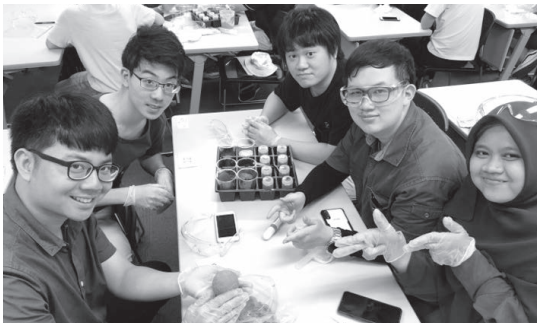
2019年７月31日（水）芝浦工業大学とキングモンクット工科大学（タイ）のグローバルPBLを実施いたしました。

参加者は、芝浦工業大学稲積教授と学生23名、キングモンクット工科大学のソムポート教授と学生14名の合計37名。今回は現場と屋内の２部構成で行いました。

午前の部は、三信本社の会議室で地盤改良（午後に見学するV-JET工法と都市土木で有効な工法）のプレゼンと液状化実験や薬液注入の固化（ゲルタイム）実験を質疑応答も含めて行いました。

午後の部の現場見学会は、弊社三信建設工業（株）が実施しているV-JET工法の施工見学と当該プロジェクト全体の説明と質疑応答を行いました。

普段ではなかなか経験できない実験を交えたプレゼンと、都内の大型プロジェクト現場見学では、数多くの施工機械が稼働している中を順番に見学。好奇心と興味をもって質問も活発に明るく楽しく参加していただきました。



薬液注入の固化（ゲルタイム）実験の様子

あおみ建設株式会社

Civil Engineer（市民のための技術者）の仲間としてできること

土木企画部長　佃 陸郎 氏

GTIコンソーシアムの活動を知り、参加を始めて２年になりました。今回のグローバルPBLではインフラ整備に注目して、現場見学先を東京港臨海道路南北線事業にしました。この事業は東京港における外貿コンテナ物流路線の渋滞緩和と2020年オリンピック・パラリンピック競技場へのアクセス道路の目的で整備されています。タイ（KMUTT）および日本（SIT）の学生の皆さんには海底トンネルが貫通していたこともあり、現地で沈埋函の中を真中まで歩いてもらいました。実際に沈埋函の接続部分の構造を見学していただけたのは、良い経験になったのではないかと思っています。私たちは建設会社として、Civil Engineerの必要性を理解し、その志のもと一緒に道を歩んでほしいとの思いで活動をしています。学生の皆さんに少しでもその思いを共有できたなら幸いです。

報　告

世界12の国・地域、25大学・1企業から88人が集う

Cross-cultural Engineering Projectを実施
ー企業の課題解決に挑むー

Cross-cultural Engineering Project

開催期間
2019年12月12日～12月20日
開催場所
芝浦工業大学大宮キャンパス
埼玉県さいたま市、栃木県那須町、那須塩原市
参加大学・企業
12の国・地域　25大学　企業１社　88人
日本、インド、インドネシア、オランダ
ポーランド、シンガポール、タイ、台湾、中国
ブラジル、ベトナム、マレーシア、モンゴル
課題提供
株式会社リコー、株式会社本田技術研究所
株式会社タムロン、カネパッケージ株式会社
株式会社興電舎
スミス・アンド・ネフュー株式会社
笛木醤油株式会社、OpenStreet株式会社
South Speak English Institute Inc.
埼玉縣信用金庫
栃木県、那須町、埼玉県、埼玉県さいたま市
那須町ワークショップ
- ワークショップ１：（ストーリーテリング）
  藤和那須リゾート
  「冬を楽しむストーリーを探せ」
- ワークショップ２：（ワイガヤ）
  那須高原次世代交通協議会×Azit（CREW）
  「次世代モビリティのビジネスモデルを探せ
  （自動運転、シェアレンタカー&サイクル、IoTなど）」
- ワークショップ３：（ユニコーン）
  那須どうぶつ王国×Chus
  「那須高原のユニコーンサービスを探せ」
- ワークショップ４：（ハッカソン）
  那須高原レンタカー×NAVITIME
  「MaaS向けソフトウェアプロトタイピング」

1　学んだ知識を社会問題の解決につなげる

2019年12月12日から９日間、日本を含む世界12の国・地域、25大学・１企業から集まった88人が、芝浦工業大学開催のCross-cultural Engineering Project（CEP）に参加しました。大宮キャンパスでは、企業や団体の抱える課題の解決策をグループ分けされた参加者たちが提案。プログラム中盤、２泊３日で向かった那須高原では、変化対応力を養う“インプロビゼーション教育”を念頭においた、那須地区・企業・団体との連携ワークショップも行われました。

知識を得るだけの学びではなく、アイデア力のある実践的な人材を育成するために芝浦工業大学では多くの企業・自治体と連携したプログラムが実施されています。学んだ知識を社会で応用する、社会問題の解決につなげるという発想を育みます。

Cross-cultural Engineering Project、通称「大宮グローバルPBL」は、質・量ともに進化を続けています。参加者が88人となった今回は、14グループに分かれそれぞれ違う企業課題の解決に取り組みました。毎年課題を提供しているカネパッケージ株式会社は、人型ロボットの段ボール商品パッケージを再利用するアイデアを今回の課題としました。中間発表では、そのままの大きさで机として再利用するというアイデア発表に教員から「若者らしい面白みのある発想が足りない」と厳しいコメントもありましたが、最終発表では、大きなパッケージに幾何学模様の筋を入れ、折りたたむことで省スペース化とデザイン性が向上したアイデアを発表することができました。

笛木醤油株式会社からの課題に対し、学生から醤油の

絞りかすをスモークチップとして活用するというアイデアが出されました。笛木醤油の担当者からは「今までに聞いたことないアイデアでビジネスとして成功しそう」というコメントが出ました。井上副学長からは「資源をリサイクルすることはSDGsにも繋がるため素晴らしい」との言葉がありました。

那須高原ワークショップでは、限られた時間の中でさまざまな問題をアイデアの力で解決する変化対応力を身につけました。那須高原地元のユニコーンサービスを探したり、あらゆる公共交通機関をITで切れ目なく利用できるようにするシステムMaaS（Mobility as a Service）を試作開発したりするなど、いまビジネス雑誌で取り上げられるようなテーマを多く取り入れました。

学生のコメント

多国籍なメンバーでダイバーシティを感じた

シンガポール国立大学
学部３年生
Justin Chia Yi Pin

このプログラムはとても有意義で良い機会となりました。同じグループのメンバーも多様な国籍で構成されていて、ダイバーシティを感じました。最も印象的だったのは栃木県那須町へのフィールドトリップでした。

日本と言えば東京や富士山が有名で、那須町のことは知りませんでしたが、実際に行ってみてとても美しい場所だと思いました。

プレゼン成功にTAメンバーや参加者に感謝

芝浦工業大学
機能制御システム専攻
博士３年
Suphanut Kongwat

TA（Teaching Assistant）という立場でこのプログラムに参加しましたが、全体の運営がとても大変でした。最終プレゼンテーションが終わった後、多くの方からたくさんのフィードバックをもらえたので、それがとても嬉しかったです。

改めて振り返ってみると、自分１人では絶対にできないことばかりだったと思います。他のTAメンバーや参加者に感謝したいです。

学生のコメント

技術を学びながら異文化を知る

芝浦工業大学
システム理工学部
機械制御システム学科３年
山本 貴三香

英語が苦手な意識があって参加が不安でしたが、メンバーが私にもわかりやすいように配慮してくれたので安心してプログラムに臨むことができました。

プレゼン発表で使用するパワーポイントの使い方も日本と異なって、技術も学びながら異文化も知ることができました。

TA間での情報共有の大切さを実感

芝浦工業大学
システム理工学専攻
修士１年
山下 愛

今までは参加者として参加してきましたが、今回初めてTAとして運営側で関わりました。参加者の立場ではいろんな国籍の人の意見をまとめることが大変でしたが、今回は100人近くのメンバーをまとめることの大変さやTA間での情報共有の大切さを感じることができました。

英語でアナウンスする場面も多く、まだ英語力が不足していると感じたのでこれからがんばりたいです。

短期間で多くの課題取り組みが達成感に

東京電機大学大学院
理工学研究科
電子機械工学専攻修士２年
多積 直之

今回のグローバルPBLが通算３回目の参加となります。毎回貴重な体験をさせて頂いていますが、今年は特に良かったと思います。

このグローバルPBLは短期間で数多くの課題にチームで取り組むことで、達成感や自分自身の課題を得ることができます。これから就職するのですが、大変よい経験になりました。

多くの国籍の人と交流できたことが財産

ランシット大学（タイ）
Tunyada Pakametawee

このグローバルPBLは私自身や所属大学にとっても初めての参加でした。最初は何をすれば良いのかわからなく、多くの参加者が工学を学んでいる中で私はデジタルアート専攻なので、どのようにすれば良いか迷うこともありました。メンバーの英語レベルもバラバラでしたが、少しずつコミュニケーションを取ることで徐々にお互いを理解できるようになったと思います。

このプログラムを通じて、日本だけではなく、多くの国籍の人と交流できたことが財産となりました。

受け入れ企業のコメント

カネパッケージ株式会社

人型ロボット「Pepper」輸送箱の利便性向上

設計部係長　青木 健二 氏

大型のショッピングセンターに行けば一台は見かけるであろうAIロボットの「Pepper」。彼らは働き者のため、同じ場所に留まっておらず、彼方此方へ頻繁に移動する。弊社ではそんな彼らの移動を快適にするための輸送箱を開発したが、移動先で輸送箱が幅を取り、スペースを圧迫する事が唯一の欠点であった。

本事業では上記欠点である「梱包箱の移動先での収納・活用方法」の検討を依頼した。

最終発表では箱を分解し折り畳み、箱の体積を1/8程度まで小さくする為のアイデアを模型にて説明。

制作過程では梱包箱をしまうのではなく、足をつけ、テーブルとして活用してしまえばよいと言ったアイデアもあり、移動先での限られたスペースを有効活用できることは高く評価でき、梱包箱のリニューアルを行うにあたって、実用化レベルにあり、検討を進めたい。

株式会社興電舎

IOTソフトウェアの社内導入教育のための教材作成

代表取締役会長　鈴木 博夫 氏

今般、ファクトリーオートメーションの業界において、IOTおよびロボット化の進展により従来よりもソフトウェアの比重が増えている。

この分野は通常のソフトウェアと異なり、センサデバイスやアクチュエータといった対象からの情報のつながりも理解する必要がある。本事業では特にこのような分野には経験のない新入社員やインターンシップ生にとっても、十分に導入しやすい教材を作成することを依頼した。作成過程では依頼者とディスカッションにより仕様打ち合わせのプロセスを経ることで要求元の根本的なニーズの探求が行なわれ、結果として、概念をわかりやすく説明したビデオ教材、および電子基板による簡易な研修キットの作成までに及んだ。この流れは今後のe-learning及びハンズオン学習の基盤を形成するものになると期待される。

GTIコンソーシアムシンポジウム2019報告から（抜粋）

Special Speech1／特別講演1

Invented for Life – Towards a Sustainable Transformation

Mr. Alexandre Riesterer (Director and Executive Vice President of Bosch Corporation, Japan)
ボッシュ株式会社　取締役副社長　アレクサンドレ・リーステラー 氏

1 Introduction

What strives a company which is older than 130 years? What strive us when we develop new products? We focus on life. We would like to improve the life. Focusing on profit is not enough. Our company is not a listed company. Our company is a foundation and the fact that we are foundation, it helps us to think that way and to develop products for the people.

We are active. We are active in four main business sectors. The most important one is connected to mobility solution. It accounts for 60% of our sales. We are the largest automotive supplier in the world.

We are busy as well in the industrial technology, energy building technology and consumer goods. Today, I would like to focus especially on the mobility solution because this is where things are moving the fastest for the moment; and this is where we need the new type of engineers.

Beside that you have to know that 1.3 million people still die because of accidents and 90% of them are caused by human errors. And this is the reason why we think the driving assistance systems will help to reduce these kinds of accidents. This is the vision behind. So, we are talking about automotive, but what about the tense? What is moving the automotive industry today?

2 Today's Automotive Industry

We talk about PACE. P is "Personalized". People want personalized products. Even though we have

ボッシュ株式会社

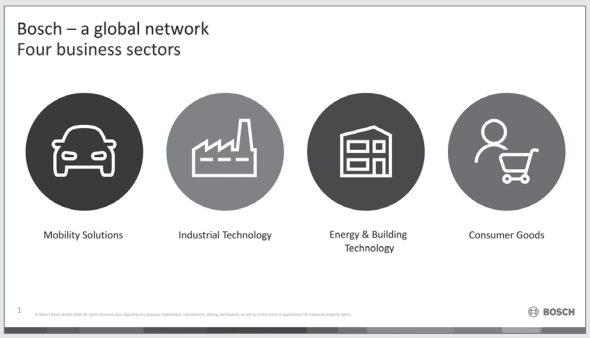
日本進出　1911年
資 本 金　17,000百万円
従業員数　5,333名
業務内容　エンジンマネジメントシステム・コンポーネント、トランスミッション制御、自動車センサー等

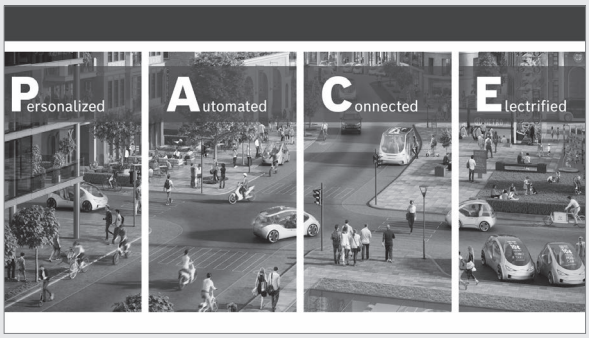
1911年（明治44年）に日本で事業を開始し、2019年で108年目を迎えた。
ボッシュ・グループとして、4つの事業領域（モビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、エネルギー・ビルディングテクノロジー、消費財）のサービスや製品を提供している。グループのコーポレートスローガンである「Invented for life」を体現する革新的なソリューションを目指している。

講演者紹介

取締役副社長　**アレクサンドレ・リーステラー**

1993年　Aachener und Münchener Immobilien GmbH（ドイツ）
　　ファイナンシャル アナリスト
1997年　Belgacom SA（ベルギー）
　　シニア ファイナンシャル アナリスト
1998年　ロバート・ボッシュSA（ベルギー）
　　ファイナンシャル コントローラー
2003年　ロバート・ボッシュGmbH（ドイツ）
　　電動工具事業部、ファイナンス・コントローリング、マネージャー
2006年　ボッシュ株式会社
　　シャシーシステム コントロール事業部
　　ファイナンス・コントローリング、ゼネラルマネージャー
2010年　ボッシュ オートモーティブ（タイランド）Co., LTD.
　　ロバート・ボッシュ オートモーティブ テクノロジー（タイ）
　　プレジデント、マネージング ディレクター
2014年　ロバート・ボッシュGmbH（ドイツ）
　　シャシーシステム コントロール事業部
　　ファイナンス・コントローリング、シニア バイス プレジデント
2019年1月　ボッシュ株式会社 取締役副社長





more and more people living on earth, people are looking for solutions for them. Solution they have chosen for themselves. A for “Automated” and C for “Connected”. Moving from A to B means using all mobility solutions that we have today. People don't mind to take a car or to take the train. They want to be moved from A to B. And thanks to the connectivity we are able to get everything together in order to be able to move from A to B. And this is the reason why we are working on that.

And last but not least E for “Electrification”. So today the automotive industry is changing. This is what the head of Bosch and the head of Daimler is saying. What is Bosch aiming to do with the trend?

We need to think about the society as well and we need to become more eco-friendly.

First, we want mobility that helps keep our planet healthy and our cities clean. Bosch will be the first industrial enterprise to make its location worldwide carbon neutral within one year.

Second, what is ecologically correct, will not be socially and economically incorrect. Emissions free is possible, but it must remain affordable. To most mobility, will not only be electrified and automated, but also connected and personalized. For us, it means services that find the best way for each individual to get to the destination, whether on two or four wheels or by road or by train. Supporting multimodal mobility is also a response to the critical issues surrounding roads traffic.

What is Bosch doing? Today we have already 14,000 software engineers working for our company to fulfill a significant more powerful vehicle, electronics and software architecture which is important for connected driving without the new telecom technology the connected driving is not possible.

The memory capacity and the computing power will increase by a factor of at least 1000 at the start of the next decade. A new year is beginning. Many people are asking me, "You are working for the automotive industry, what car should I buy?"

And the answer is quite simple. In 2030, we consider, and this is our assumptions, that 75% of the new vehicles, will still have a feature of diesel or gasoline engine or combined or not with an hybrid option, which means in 11 years, the electrification is coming, but our assumption is even in 11 years, in 10 years, not more than 25%. Which means for a company like us, we need to continue to develop the combustion engine for the next 15, 20 years. We need to work on the new technology. We need to offer solutions for the electrification.

And this is quite challenging and we need a lot of engineers to do that. And this is the reason why I came here today. The electro-mobility is we believe our next success story, Electro-mobility is gaining speed.

So, what about the fuel cell? More specifically, we are further refining the stack made by our partner power cell, which already offers the highest power cell density in the market. The task now is to manufacture it's cost effectively. So we have the technology, but now we need to reduce the price or the cost. Mass production is one of our strengths. Please be reminded that we made common rail technology affordable for everybody, and we will do

GTIコンソーシアム連携の成果

2016年度	海外インターンシップ受入（ベトナム／2名）
2017年度	海外インターンシップ受入（ベトナム／2名・ドイツ／1名） 豊洲・大宮にて特別講義を実施
2018年度	海外インターンシップ受入（ベトナム／2名） 豊洲・大宮にて特別講義を実施
2019年度	海外インターンシップ受入（インド／2名） 豊洲・大宮にて特別講義を実施

the same for the alternative of fuel trained search for fuel cell.

Another domain where we are active is driver assistance. We will generate 12% growth with driver assistance. This year, we already are making more than two billion Euro sales with driving assistance sensors. A series of other sensors alone will grow by 20% in 2019, and those with video sensor will grow by 30% in 2019.

For the next level of automated driving is freeway assistance that allow drivers to take their hands off of the wheel. We are currently developing such level two hands off systems for the Asian and US market.

3 What we can offer for students

Out of the 6,840 associates in Bosch Japan, we have 1,400 who are working in research and development, and 2,500 people out of the 6,840 are working in manufacturing, where we are also have a need for engineering and of course, so a lot of opportunity for STEM students. Now let's talk about the students because at the end, this is the reason why we are here today. So what can we offer? During your studies, we offer three kinds of internships. We offer standout internet internship, which is a global internship. This year in Japan we had about 100 students participating to this program. The duration of this program is between six to 12 months.

We have another internship called the seasonal internship which fits much more with the Japanese culture because it's from two weeks to two months. 42 people applied for this internship in 2019, and we have the global internship where we sent 21 students for two weeks in overseas company. How do we behave as an employer and I will explain, this a little bit later but first I would like the questions, what are we looking for? We are looking for English speaking people. English is our working language. We need open minded people. We need people who are able to show initiative. Spark is our motto. We need people who respect each other. Diversity, everybody's talking about diversity. Of course we are doing the same but I can tell you after 21 years working for Bosch, diversity is really a true value and this is not something that we put on a PowerPoint slide.

As you said, we have teams and of course the teams in Japan are not working alone. They're working with all the Asian countries, very closely with China, Germany and North America despite the difference of working hours. So we need flexible people, we need to attract people who are willing to live in this environment. This is very important for us.

4 Connection between Bosch and the universities in Japan

So currently, here in Japan we are employing more than 40 nationalities, and we are very proud of that. Since 2016, 44 people already joined us from GTI consortium. It's good but it's not enough and we would like to increase this number and probably the students sitting in the back of this huge room are asking themselves, what are these people doing? And here we have a few example. Some people are working as a production engineer, some for the application. You saw this is typical for the automotive industry. You have your product and you have to organize the application for the customers located here in Japan. Some of them are already project managers, some of them are working on the software developments and on the sensor developments.

So the messages that I hear today before my presentation, they are all going into one direction. I don't feel that we are apart from each other and I'm very happy to hear that. So let's work together. Let's support each other. We as a company, we need you as well.

学生のコメント

プロジェクト達成のために コミュニケーション力を磨く

芝浦工業大学 工学部 電気工学科　3年　金野 惇

インターンシップ参加の動機、経緯

「世界中どこでも即戦力」となるために

世界中どこでも即戦力。そんな人材になりたいと考えております。グローバル化趨勢の中、少子高齢化による日本市場の縮小は多くの日本企業を海外進出へと駆り立てております。加えて激化してゆく米中貿易摩擦を契機に多くの企業が製造拠点を中国から東南アジアやヨーロッパへと移転することとなりました。このことから、現代では海外でエンジニアとして働くにあたり、これからどこで働くことになるかという推測は難しいものとなっていくだろうと考えました。今のうちから少しでも多様な海外経験を積んでいくことが、いわゆる「世界中どこでも即戦力」な人材となれるための重要な布石であると考え応募いたしました。

インターンシップの感想

プロジェクト達成にはチームでの相互作用

チームとして働くことの楽しさを体感できました。チームでは、各々なるべく異なる工学的バックグラウンドを持つように構成されております。1つのプロジェクトを成し遂げるのに、自分が知っていることを教えたりあるいは自分が知らないことを教えてもらったりしてたくさんコミュニケーションを図りながら物事を進めていきましたが、これが非常に刺激的で面白かったです。

成果・自身の成長した点・今後の抱負等

コミュニケーションは正確な伝達と不明点の解決

仕事において積極的に自分の考えを他人に伝えることの大切さを実感できました。正直、働く上でコミュニケーションが大切だと今までよく言われてきましたが、あまりピンときませんでした。しかし、プロジェクトを実際に進めていく上で分からないことは山ほど出てきます。そこで不明点をきちんと主張し、理解を確かなものにしていかないと全く先へとプロジェクトを進められません。さらに「いったいどんな意図があってこんなことをしているのだろうか」「現状に対してどんな風に考えているのだろうか」などといった各々の考えをチーム内でクリアにしていくことは生産性向上のためにとても大切です。それだけでなく、仕事において相手に対して誠実に接するということでもあると思っています。

GTIコンソーシアムシンポジウム2019報告から（抜粋）

Special Speech 2／特別講演 2

Data Analysis / Web Application Development Using PHP
データ分析・PHPを用いたWEBアプリ開発

株式会社コウェル 営業本部 マーケティング部 部長 今井 徹 氏
有限会社コウェルアジア 代表 グエン・カオ・クオン 氏

今井　徹 氏

グエン・カオ・クオン 氏

ベトナムを拠点とするオフショア開発企業としてはパイオニア的な存在であるコウェルは、日本企業の厳しい品質への要求に応えるため、日本語を習得した上級開発エンジニアとテストエンジニアの育成に注力している。現在は上流工程、プロジェクト管理の面で、日本人のエンジニアが手厚くフォローする体制により、品質への要求基準の高い日本企業への要望に応えてきた。

現状、そのような上流工程を任されるエンジニアは日本人が担っているが、われわれのビジョンとしてはベトナム人のエンジニアを日本に呼び、日本で仕事を覚えてもらうことで、海外の優秀なエンジニアを同じようなポジションに就かせ、日本の顧客の仕事を支援したいと考えている。

10年ほど前はベトナム内では中途採用で優秀な人が獲得できたが、今は同じような方法では優秀な人材が獲得できない。これからは大卒のエンジニアをいかに採用できるかスピード感が大切になっている。そこでベトナムだけでなく、日本でも活動を開始するべくGTIコンソーシアムに加盟した。

〈3年間の間の活動〉

①インターナショナルインターンシップ、2週間ベトナム内でのプログラムを展開

②グローバルPBL。例年ベトナム人10名、芝浦10名（留学生含む）で実施

CO-WELL Co.,LTD.

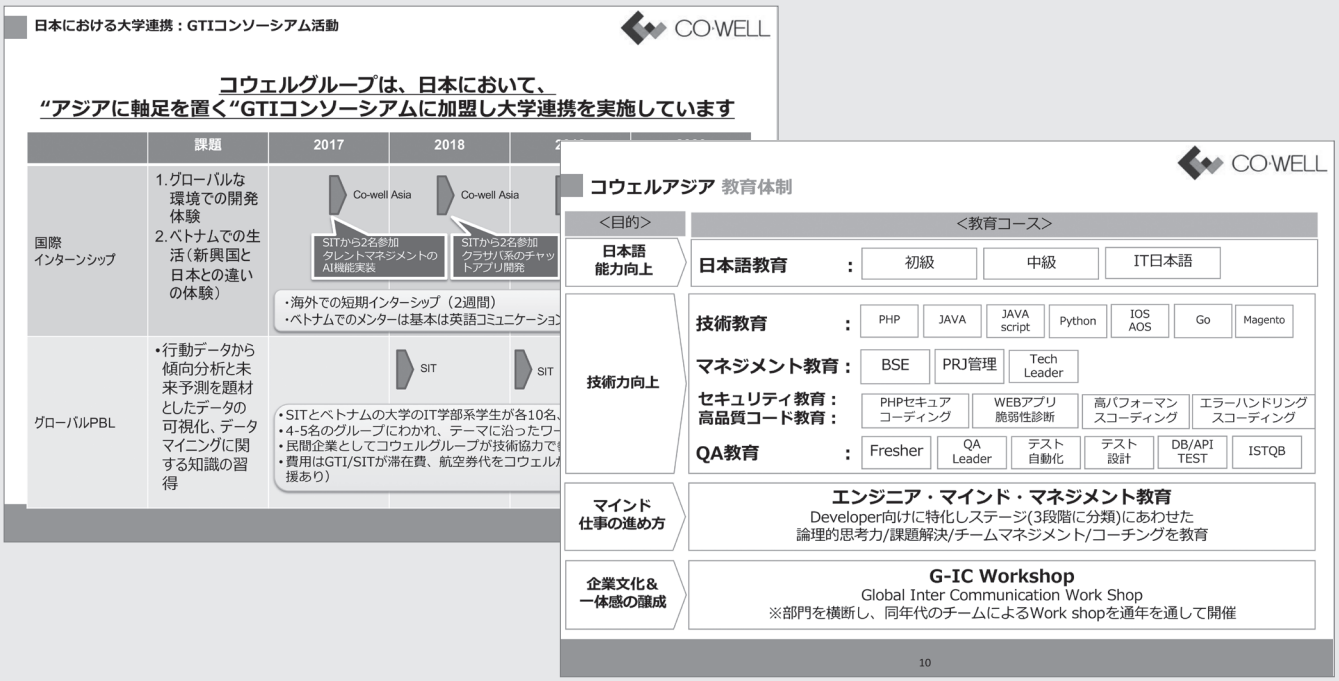
3年前にGTIコンソーシアムに加盟。日本（東京本社・宮崎支社）に約80名ほどエンジニアを要し、ベトナムのハノイ・ダナンに400名ほどのエンジニアを持つ。ソフトウエア開発のほか、ITコンサルティングやソフトウエアテスト、クラウドインテグレーションのアウトソーシングを請け負い、顧客のIT分野を包括的に支援している。また海外のITエンジニアの採用にも力を入れており、日本企業への人材紹介も担う。顧客層としては外食産業、小売業や金融業など幅広く、大手企業の下請け企業としてではなく、直接エンドユーザーと契約の上、現場のシステム環境の把握、課題やニーズの発掘などを手がけている。これらの活動を通じ、アジアオフショア開発において日本品質を保ったITサービスを提供するトップ企業を目指す。

外国人採用スケジュールとCO-WELLの教育システム

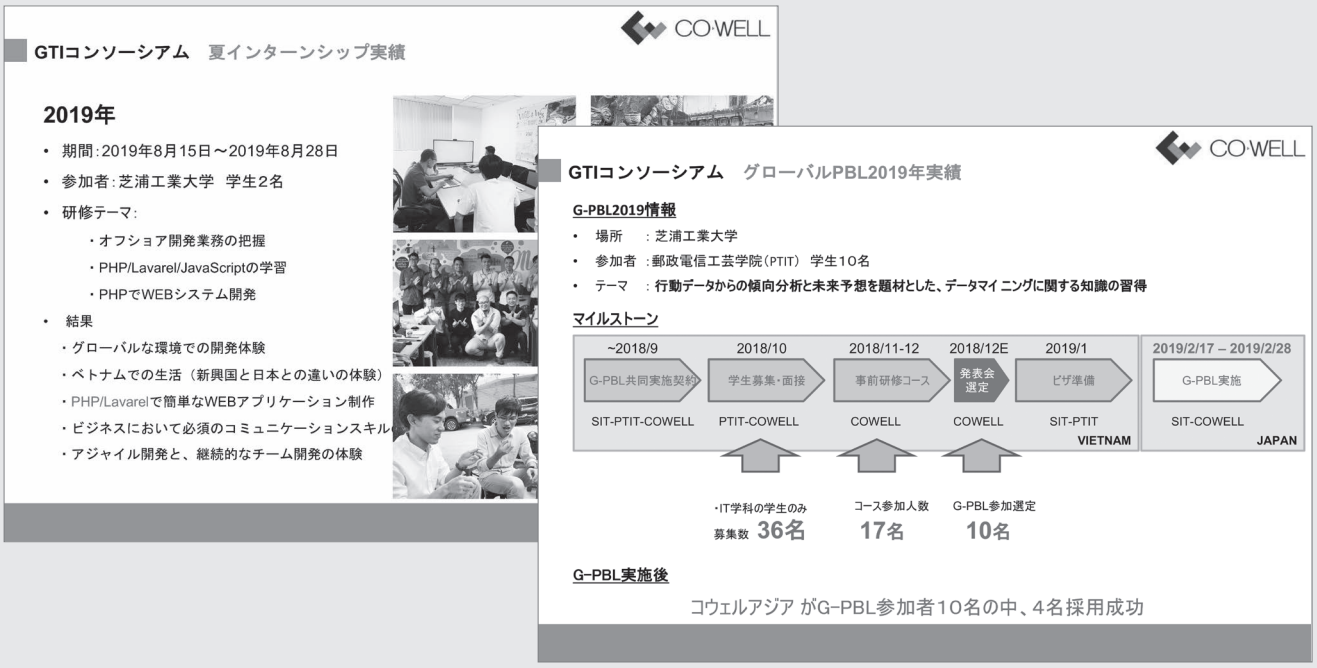
ベトナムでは、日本のように一斉採用・入社の形式はありません。欧米と同じく秋が卒業の大学が多いですが、一部１月が卒業の大学もあります。

通年、新卒学生をインターン、アルバイト、正社員のステップで採用を進めるスタイルが一般的です。

コウェルでは、主要なハノイ地区の大学に、在学中の学生向けの寄付講座（開発言語別）を開設し、さらに入社後は集中的かつ体系的な技術教育のプログラムを自社開発しています。さらに、日本語教育では、日本人およびベトナム人の日本語教師を正規雇用しています。



〈インターンシップ、PBLの例〉



学生のコメント

ベトナムでホームページ作成過程のすべてを体験

芝浦工業大学 工学部 情報工学科 3年　唐沢 将太

インターンシップ参加の動機、経緯

不安からの再チャレンジ

3年生の夏休みから就活の意識を持つためにインターンシップに参加したいと思っていました。自分の今の実力でインターンシップに参加できるのか不安があったのでキャリアサポート課に行き、担当の方に相談をしました。不安は完全には解消されませんでしたが、一度春にグローバルPBLでベトナムに行ったので、もう一度行きたいと思い、参加することを決意しました。

インターンシップの感想

多忙な中でも充実した毎日

会社での業務は、私たちの実力を踏まえ相談した上で、LaravelとBootstrapを使用したホームページ作成タスクを与えられました。

ホームページの作成は、スケジューリングや要件定義、環境の決定、デザインまですべてを体験しました。すべてを1人でするのではなく、わからないことはすぐに質問をしました。優しく教えてもらえるのでとても質問しやすかったです。

毎日の日課として、その日の進捗や反省、次の日にやることをslackで報告しました。これで、自分の現在の状況から完成までの道のりをみて、次の日にどこまでやればいいのか、スケジュールを変更すべきところがあるかを認識することができました。やることはとても多かったのですが、とても充実していました。

成果・自身の成長した点・今後の抱負等

タスク達成で能力の向上を実感

自分でスケジューリングをしてタスクをこなすことで、目標への道のりや期間設定の能力を向上させることができたと思います。初めて会い、一緒に仕事をする方々に自分から話しかけることを意識して実践することができました。これによって、自分から話しかける経験を積むことができて良かったと思います。

ここで、学んだLaravelの知識を定着させるためにも自分でLaravelの学習やホームページの作成を続けていきたいと思います。わからないことがあるとすぐに質問をしてしまっていたという自覚があるので、自主的に調べたり考えたりするように意識して日々の勉学に生かしたいです。

受け入れ企業　**鹿島建設株式会社**

タイで
コミュニケーション能力を養う

芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SAコース３年　堀江　祐奈

鹿島建設株式会社の
国際インターンシップ概要

日　程　2019年９月２日～９月16日
実施国　タイ

インターンシップ参加の動機、経緯等

異なる言語と文化へのあこがれ

２年の春休み、１ヶ月オーストラリアで語学留学をしました。初めて長期間、異なる言語と文化の中で生活をしました。それまでは日本から出ずに生きてきたので、海外での生活は私にとって刺激的で楽しかったです。そのときから漠然と海外で生活をしてみたいと考えるようになり、仕事をしながらの生活を体験するために今回の海外インターンシップに参加しました。

インターンシップの感想

英語は何度も聞き返してコミュニケーションを図る

タイでは、構造設計チームに所属させていただき、現場見学や現地調査の同行、タイの法律に基づいた鉄筋コンクリートの配筋計算などを教えていただきました。

手書きやAUTO CADを用いた設計はタイ人から英語で教わるので、手こずってしまうこともありましたが、聞き取れなかったことを聞き流すのではなく、たくさん聞き返してタイ人との深いコミュニケーションを図りました。そうすることで、仕事だけではなくお互いのプライベートなこともたくさん話せて、休日に会ったり、旅行に誘ってくれるタイの友人ができたことはとてもうれしかったです。

成果・自身の成長した点・今後の抱負等

エンジニアとして海外でチャレンジしたい

今回、海外での就業を体験してさらにリアルな海外生活を想像することができました。

渡タイする前もコミュニケーション能力には自信がありましたが、お互い自国語ではない言語でのコミュニケーションは円滑に行かないことも多々ありました。そんな中でも、工夫をして相手に伝える能力を高めることができたと思いますし、建築に対しても積極的に学ぼうとする姿勢ができたと思います。

今後は、日本で知識と技術を磨いて一人前になってから、ぜひ海外に行き、立派なエンジニアとして働けたらと思います。

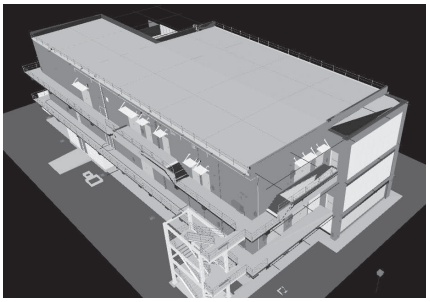
受け入れ企業　三井住友建設株式会社

Great Opportunity in One of the World's Most Prosperous Countries

芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UAコース３年　Liu Yi Chan

三井住友建設株式会社の国際インターンシップ概要

日　程　2019年９月９日～９月20日
実施国　シンガポール



The purpose of applying for this internship

Take a step out of your comfort zone to improve yourself

The city-state of Singapore, also known as the lion city, is a major business hub of Asia and one of the world's most prosperous countries. The internship in Singapore is an ideal destination for me to be introduced to what Asia is all about. Furthermore, I believed that one of the best ways to learn more about the different architectural ideas and technical knowledge is to travel aboard for an internship. Take a step out of your comfort zone will help to improve your overall confidence and to learn how to conquer fear.

Summary of internship

Gained skills and experience for my future career

This internship made a huge impact on my future career. I learned many different things and knowledge from the little ones to the big ones. I achieved my goals that set out at the beginning of this internship which attains an in-depth knowledge of project management and enhances my communication. During my internship, I mostly worked with a different department every day. This helps me to improve my architectural skills and my communication skill. In the end, I want to say that the most valuable part of my internship experience was that it taught me what I need to look out for in my future career. I learned many lessons and I can say that do not be afraid of making mistakes. As a human being making mistakes is natural but to me, the most important part is to learn from it and not to do it again.

What I have learned from this internship

Great opportunity to learn, know and make friends

Due to this oversea internship, I learn how the system of company SMCC working and the procedure of construction management. Also, I learned that always work hard even if your task is small and seems unimportant. It will help you build a good work ethic, and people will notice the effort you put in. Intern life can be tough, and you only get a short time to make a lasting impression. However, it is a great opportunity to gain experience, make friendships and learn.

受け入れ企業 **カネパッケージ株式会社**

海外で働くことへの憧れを改めて実感

芝浦工業大学 工学部 応用化学科３年　岩澤　颯

カネパッケージ株式会社の国際インターンシップ概要

日　程　2019年９月９日～９月20日
実施国　ベトナム

インターンシップ参加の動機、経緯等

海外で活躍できるエンジニアを目指す

海外で働くために必要なスキルと、そして世界で今求められている人材および社会貢献のイメージが明確でなかったことが、参加を決めた動機でした。

自分には２年半の留学経験があり、それを活かして将来は海外で活躍できるエンジニアを目指して就職活動を展開しようと考えています。その一方で、アルバイトという限定的な環境でも協調して働くことの難しさを感じることが多い中で、異なる文化的背景を抱えた人々と日本のハイクオリティな仕事を遂行する能力を学ぶ必要を強く感じていました。それに加え、教授の主催したグローバルPBLでカネパッケージ様の設計部の方と面識があったことや、東南アジアを中心に海外に多くの拠点を持っていることが参加の決め手となりました。

インターンシップの感想

ベトナム人スタッフのプロ精神に感動

２週間という限られた期間であるにも関わらず、大変多くの経験をさせていただきました。

業務については基本的にベトナム人スタッフの方々から教えていただきましたが、その中ではいつも強いプロフェッショナル精神を感じました。お客様のほとんどが日系企業であることも一因ではありますが、ベストクオリティへのこだわりが随所であふれており、仕事への熱意が隅々まで行き渡っていることに感動しました。

また、お客様へのご訪問に帯同させていただいたことも貴重な経験でした。実際に駐在されている社会人の先輩方から、他では聞けない多くの体験談やアドバイスをいただき、より一層海外で働くことへの憧れが強くなりました。

成果・自身の成長した点・今後の抱負等

途上国の発展に寄与する仕事をやりがいに

文化の違いを乗り越えて働く人々に出会えたことが、一番の成果であると思います。

駐在されている先輩方が口をそろえて「問題は多いがその分やりがいも大きい」と仰っていたことに海外で働くことへの憧れを改めて実感するとともに、残りの大学生活では自分もそのような環境に身を置いて仕事ができるよう邁進しようと決意しました。

また、ベトナム人の方々と生活や仕事などのお話をする中で、途上国の発展に自分がどのように寄与できるかを改めて考えるようになったことも、本インターンシップで得られた成果ではないかと思います。

GTIコンソーシアム加盟機関一覧

加盟機関総数：221機関（政府・行政関係機関：9、民間機関：175、高等教育機関：37）

2020.3.31現在

運営委員会		
行政・政府関係機関		
(独)国際協力機構	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	(独)日本貿易振興機構
産業界		
(株)IHI	(株)フジクラ	三菱電機(株)
(株)NTTデータ	ポッシュ(株)	
東京東信用金庫	(株)三井住友銀行	
トヨタ自動車(株)	三井住友建設(株)	
高等教育機関		
工学院大学	東京電機大学	福岡工業大学
芝浦工業大学	東京都市大学	
アドバイザリーメンバー		
高等教育機関		
ハノイ理工科大学	キングモンクット工科大学トンブリ校	泰日工業大学
ホーチミン市工科大学	マレーシア日本国際工科院	ガジャマダ大学
バンドン工科大学	スラナリー工科大学	マレーシア工科大学
一般会員		
行政・政府関係機関		
(一財)海外産業人材育成協会	埼玉県	(一社)首都圏産業活性化協会
(公財)川崎市産業振興財団	(地独)東京都立産業技術研究センター	港区産業・地域振興支援部国際化・文化芸術担当
産業界		
AAM International Holdings Inc.	(一社)国際人育成支援協会	日本航空(株)
SuperOx Japan LLC	小島染織工業(株)	(一社) 日本国際化推進協会
Manufacture Overhaul Rapid and Optimal Co.,Ltd.	(株)コステム	(一財) 日本情報経済社会推進協会
Apple Japan	コスモリサーチ(株)	(一社) 日本舶用工業会
COPRONA(株)	(株)サーマス(千葉大学発ベンチャー)	日本ピストンリング(株)
(株)アートランド	(一社)さいしんコラボ産学官	日本ベース(株)
アイシン精機　(株)	(株)サイサン	日本ユニシス・エクセリューションズ(株)
(株)アールティ	埼玉縣信用金庫	(社)日本ワーキングホリデー協会
I-Nex(株)	(株)Sun Asterisk	(株)乳糖製菓
(株)アイバック	(株)栄精機製作所	(株)ネクステージホームステイインジャパン
あおみ建設(株)	(株)三技	(株)ネットラーニング
(株)アキュウェル・コーポレーション	三信建設工業(株)	(株)乃村工藝社
(一社)アクティブ・ラーニング協会	三報社印刷(株)	(株)長谷川機械製作所
朝日新聞社メディアラボ	三裕製菓(株)	(株)ハセッパー技研
(特非)アジア高等教育支援機構	サンワテクノス(株)	(株)浜野製作所
アトーテック(株)	芝信用金庫	浜松信用金庫
アドバンスト・ソフトマテリアルズ(株)	島村金属工業(株)	(株)バチルテクノコーポレーション
(株)アローコーポレーション	情報セキュリティ(株)	バレイキャンパスジャパン
淡路マテリア(株)	(福)シルヴァーウィング	(有)ヒューマンリンク
アンテナ技研(株)	(株)進富	(一社)PMI日本支部
石川金網(株)	(株)JTBコーポレートセールス	ファースト電子開発(株)
(株)石川工場	GEヘルスケア・ジャパン(株)	ブレインストームワールドワイド(株)
伊藤忠マシンテクノス(株)	住友建機株式会社	プーランク(同)
インターナショナルマネジメント教育&コンサルティング	住友重機械建機クレーン(株)	(株)フコク
(有)ウィズ	住友林業(株)	(株)ブロードバンドタワー
(株)Willings	セイコーホールディングス(株)	(株)ベルニクス
(株)エイ・エス・エイ・ピイ	西武信用金庫	ポーライト(株)
ABK学館日本語学校	(株)ゼオシステム	(株)松田電機工業所
SHコンサルティング(株)	(株)ソリジェ	松山油脂(株)
SCSK(株)	タイ　セムコン	マニシス情報サービス(株)
(株)エスクルス	太平洋セメント(株)	マレリ(株)
(株)エスティ・トーニチ	太洋塗料(株)	三井住友ファイナンス＆リース
NECマネジメントパートナー(株)	(株)高見沢サイバネティックス	三島光産(株)
(株)エヌエスセミコン	(株)タニタ	(株)三菱ケミカルホールディングス
(株)エノモト	中外テクノス(株)	(株)三菱東京UFJ銀行
エムアンドケー(株)	(株)Temari	三菱ふそうトラック・バス(株)
(特非)M2M研究会	(株)デンソー	(株)メトロール
遠藤工業(株)	(株)トウ・プリティー	森村商事(株)
縁プラットフォーム(株)	東亜道路工業(株)	(株)茂呂製作所
大森機械工業(株)	東京産学交流会（サザンクロス）	(株)安川電機
岡本車輌(株)	(株)東京チタニウム	大和電機工業(株)
荻野工業(株)	東京電力(株)	(株)山之内製作所
(株)オリジネーター	東光(株)	ユニクラフトナグラ(株)
(株)オムテック	東日印刷(株)	横河電機(株)
(株)華光	東洋工学(株)	ライノジャパン(株)
鹿島建設(株)	東洋電子工業(株)	(有)ラウンドテーブルコム
(株)金子製作所	(株)ドコモ・バイクシェア	(株)リアセック
カネパッケージ(株)	(株)トプスシステムズ	LIXIL
(株)きもと	ナプソン(株)	(株) Link-up
キヤノン(株)	(一社) 日・タイ経済協力協会	リングアンドリンク(株)
(株)キャメル鉛筆製作所	ニッカ電測(株)	(株)ルミナス
共進エンジニアリング(株)	(株)日刊工業新聞社	(株)レオパレス21
共和レザー(株)	日昭電器(株)	(有)ローバック
(株)クレスコ	日東化工機(株)	(株)YSパートナー
(株)コウェル	(一社) 日本オープンオンライン教育推進協議会	
(株)興電舎	日本カニゼン（株）	
高等教育機関		
Department of Metallurgical Engineering, Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	University of San Jose-Recoletos	中央大学理工学部
	University of Brawijaya	中京大学
Faculty of Electronic and Telecommunication Engineering, Danang University of Science and Technology	愛知工業大学	津田塾大学
	愛媛大学	東京女子大学
FPT University	岡山理科大学	東京理科大学
Hanyang University College of Engineering Sciences	香川大学	東北工業大学
Institut Teknologi Sepuluh Nopember	サレジオ工業高等専門学校	和歌山大学
Institute of Engineering and Technology, Mongolia	東洋大学大学院理工学研究科	
Science and Technology Park Chiang Mai University	千葉工業大学	

コンソーシアムへの加盟をお待ちしております

GTI コンソーシアムでは、趣旨にご賛同いただける企業や団体の皆様の加盟をお待ちしております。

コンソーシアムにおいて得られた産学官連携活動の成果や経験を財産として捉え、加盟いただいた皆様と共有させていただきます。

加盟条件

1. GTI コンソーシアムの趣旨にご賛同いただいていること
2. 企業、大学、団体等法人格を有していること
3. GTI コンソーシアムにおける今後の活動に、協働で参画いただけること

会費など

入会金や年会費は徴収いたしません。ただし、シンポジウムなどに参加する際に発生する諸経費（交通費など）は自己負担となります。

申し込み方法

GTIコンソーシアムの趣旨にご賛同いただき参加ご希望の場合は、下記URLよりお申し込み手続きを進めてください。

https://www.gti-consortium.jp/join

GTIコンソーシアム　2019年 事業報告書

発行日　2020年4月1日
発　行　GTIコンソーシアム事務局
（芝浦工業大学　国際部）
〒135-8548　東京都江東区豊洲3-7-5
ＴＥＬ　03-5859-7140
E-mail　gti-consortium@ow.shibaura-it.ac.jp
ＵＲＬ　https://www.gti-consortium.jp/